



第17号



発行所  
北海道高等学校  
バレーボール専門部  
発行責任者 藤原 正  
編集責任者 石崎 賢  
令和6年3月10日発行

## 令和5年度 北海道高等学校総合体育大会バレーボール競技大会

期日：令和5年6月13日（火）～16日（金） 当番校：岩見沢緑陵高校  
会場：美唄市総合体育館・岩見沢市総合体育館・岩見沢市スポーツセンター・岩見沢緑陵高校体育館

男子 優勝 東海札幌  
準優勝 科学大高  
第3位 札幌大谷  
第4位 札幌藻岩

### 【優秀選手賞】

二川 颯斗	3年	東海札幌
佐々木 一心	3年	東海札幌
佐藤 優成	3年	東海札幌
沓澤 大地	3年	東海札幌
吉田 壮希	3年	東海札幌
芦原 蓮	2年	東海札幌
石原 玲	2年	東海札幌
淀川 龍生	3年	科学大高
佐藤 ラニ海	2年	科学大高
加納 匡崇	2年	科学大高
工藤 悠雅	2年	科学大高
田中大斗	3年	札幌大谷
水谷 遼	3年	札幌大谷
山本 秀惺	3年	札幌藻岩

### 【優勝監督賞】

松田 修一 東海札幌

男子優勝：東海札幌高校



女子優勝：旭川実業高校



### 優秀入場行進賞

男子：網走南丘 女子：帯広大谷



女子 優勝 旭川実業  
準優勝 札山の手  
第3位 札幌大谷  
第4位 クラーク

### 【優秀選手賞】

笠井 李璃	3年	旭川実業
井関 芹花	3年	旭川実業
小林 史果	2年	旭川実業
谷川 星奈	2年	旭川実業
滝口 空楽	2年	旭川実業
石澤 奈々	3年	旭川実業
石崎 茉凜	3年	旭川実業
黒田 百花	3年	札山の手
小松田 凪紗	3年	札山の手
川嶋 琉姫	3年	札山の手
西川 倫呂	3年	札山の手
和泉 初音	3年	札幌大谷
磯貝 菜々	3年	札幌大谷
久保 花音	3年	クラーク

### 【優勝監督賞】

岡本 祐子 旭川実業

	ベスト8	ベスト16		1回戦		予選グループ戦	
男子	江 別	網走南丘	岩 緑 陵	静 内		室蘭工業	函館工業
	恵庭南	根 室	旭川工業			函館高専	別 海
	北 海	遠 軽	岩見沢東			稚内豊富	
	とわの森	旭川実業	小樽桜陽			帯広柏葉	
女子	恵庭南	東海札幌	岩 緑 陵	北海道栄	北 広 島	岩見沢東	倶知安
	旭川志峯	北見緑陵	遺愛女子	函 館 西	帯広南商	名 寄	函館商業
	北見柏陽	中 標 津	旭川龍谷	稚内大谷		北 海	室 蘭 栄
	札幌北斗	帯広大谷	釧路北陽	小樽双葉		苫小牧東	札 東 商



高体連プログラム

当番校：岩緑陵



# 🌸 2023 年度大会結果 🌸



## ◆ 第76回全日本バレーボール高等学校選手権大会（春高バレー） 開催地：札幌市

期日：令和5年11月15日（水）～18日（土）  
会場：北海道立総合体育センター（北海きたえーる）

選手権大会  
プログラム⇒

		ベスト4	ベスト8	ベスト16			2回戦				1回戦				
男子	優勝	札幌藻岩	札幌北陵	網走南丘	岩 緑 陵	白樺学園	旭川実業	滝 川 西	室蘭工業	釧路工業	深 川 西				
	北科大高		北 海	稚内豊富	札幌白石	留 萌	室清水丘	北見柏陽	札幌手稲	函大有斗					
	準優勝	札幌大谷	旭川工業	苫小牧工	遠 軽	札幌 北	富 良 野	函館高専	別 海	恵 庭 南					
	東海札幌		札幌工業	未来創造	釧路高専	静 内	とわの森	北 広 島	帯広三条	倶 知 安					
		ベスト4	ベスト8	ベスト16			2回戦				1回戦				
女子	優勝	旭川実業	北見柏陽	東海札幌	稚内大谷	静 内	小樽双葉	帯広南商	函館商業	滝 川	下川商業	中 標 津	北 広 島		
	旭川実業		白樺学園	釧路湖陵	啓北商業	滝 川	函 館 西	北見北斗	札幌清田	啓北商業	とわの森	恵 庭 南	苫小牧東		
	準優勝	札幌大谷	旭川明成	北海道栄	室 蘭 栄	大谷室蘭	網走南丘	釧路明輝	北 海	札幌白石	国際情報	岩 緑 陵	富 良 野		
	札山の手		岩見沢東	札幌北斗	帯広大谷	遺愛女子	クラーク	深 川 西	旭川龍谷	北 広 島	札 東 商	留 萌	倶 知 安		

## ◆ 第19回北海道高等学校バレーボール新人大会 開催地：苫小牧市

期日：令和6年2月2日（金）～4日（日）  
会場：苫小牧市総合体育館・北洋大学体育館・苫小牧南高校体育館



新人大会  
プログラム

		ベスト4	ベスト8	ベスト16			1回戦				
男子	優勝	第3位	とわの森	岩 緑 陵	旭川実業	苫小牧東	富 良 野	帯広三条	苫小牧工		
	東海札幌	札幌藻岩	北 海	札幌 西	札幌新川	市立函館	稚内大谷	函大有斗	札幌北陵		
	準優勝	第4位	網走南丘	北見柏陽	留 萌	倶 知 安	旭川工業	静 内	滝 川		
	北科大高	札幌大谷	釧路高専	恵 庭 南	小樽桜陽	遠 軽	別海根室	深 川 西	室蘭工業		
		ベスト4	ベスト8	ベスト16			2回戦				1回戦
女子	優勝	第3位	札幌北斗	クラーク	東海札幌	北見柏陽	札幌厚別	恵 庭 南	静 内	札 東 商	
	札山の手	札幌大谷	函館商業	別 海	小樽双葉	富 良 野	倶 知 安	釧路湖陵	名 寄	稚内大谷	
	準優勝	第4位	国際情報	留 萌	遺愛女子	室 蘭 栄	旭川龍谷	白樺学園	網南桂陽	滝 川	
	旭川実業	旭川志峯	岩 緑 陵	北海道栄	旭川明成	とわの森	帯広南商	苫小牧東	遠 軽		

男子優勝東海札幌



女子優勝札山の手



### 2023 選手権大会 新聞記事より

### 北海道大会初勝利北海道

全日本高校選手権北海道代表決定戦 (第1日)

15日札幌・北海きたえーる 男子1回戦

**創部24年目**

女子で2年連続2度目出場の北海が、00年創部から24年目で全道初勝利を挙げた。敢て5年目の中村崇輝(30)の掲げる「粘り強いバレー」を根拠、俱知安を2-0で下した。

24-19で迎えた第2セットのマッチポイント。俱知安のサーブがネットにかかる。北海コートに笑顔があふれた。初出場の昨年は「先鋒の悔しがっている姿を見て、何も勝てなかった」と高橋副統主将(2年)「1年後の今日」とばかりを誓い、練習で「粘り強いバレー」を出して、集中を切らさなかった」と、全道初勝利に胸を張った。

北海道大会優勝の野球場、サッカー部に激励を受けた。アタッカーの丸山桃(1年)は、154センチの小柄な体から強いスパイクを繰り出し、相手手を苦しめた。秋季全道決勝で4打数3安打2打点と活躍した野球場部の百井実三選手(1年)は得意な「私心全道ベスト8を目指して頑張りたい」と、目を輝かせた。

中村副統主は「レシーブしたボールをバスターボールのリングに入れる」「レシーブ改善のため、メスで撮影した動画を8秒後に見るといったトレーニングを導入し、選手の守備力を磨いた。「今日は粘り強いバレーができた。野球もサッカーも粘り強い勝ち方だったので、影響を受けたのかな」と感涙を零した。(中島洋尚)

男子2-0初戦突破

③ 同様に全国目指す

北海 男子も2-0で優勝大谷を下し、初戦を突破した。リベロの竹村統主将(3年)は、今夏の甲子園に出場した今北学星前主将や、年末

始の全国サッカー選手権出場を決めたGK小野寺僧とクラスメート、文化祭では各部の選手と一緒に、演劇の「コメディ版シンドレラ」で学校を盛り上げた。竹村は「サッカーを野球部と同じように全国を目指します」と気勢を上げた。

### 初出場「札幌清田」つないで旋風だ

全日本バレーボール選手権大会(札幌)の初日、札幌清田が初出場を果たし、函館商業を2-0で破り、2回戦に進出した。この大会は、函館商業が2017年の全道大会以来、約10年ぶりとなる。札幌清田は、この大会で初の全国大会出場を果たし、函館商業を破るという快挙を遂げた。

札幌清田は、この大会で初の全国大会出場を果たし、函館商業を破るという快挙を遂げた。この大会は、函館商業が2017年の全道大会以来、約10年ぶりとなる。札幌清田は、この大会で初の全国大会出場を果たし、函館商業を破るという快挙を遂げた。

# 🍡 全国大会の結果 🍡

## ◆ 令和5年度 第76回全日本バレーボール高等学校選手権大会（春高バレー）



### 旭川実業 ベスト4進出



- 【男子】 1回戦 科学大高（17-25、22-25）2高知（高知）  
 2回戦 東海大札幌1（25-23、13-25、21-25）正智深谷（埼玉）
- 【女子】 1回戦 札幌山の手2（24-26、25-22、25-22）1八王子実践（東京）  
 2回戦 札幌山の手2（25-22、25-21）0富山第一（富山）  
 2回戦 旭川実2（25-21、25-10）0岐阜済美（岐阜）  
 3回戦 札幌山の手0（13-25、14-25）2就実（岡山）  
 3回戦 旭川実2（25-23、21-25、25-16）1大阪国際滝井（大阪）  
 準々決 旭川実2（25-8、23-25、25-19）1都市大塩尻（長野）  
 準決勝 旭川実0（18-25、14-25、24-26）3下北沢成徳（東京）

## ◆ 令和5年度 翔び立て若き翼 北海道総体 2023 轟かせ魂の鼓動北の大地へ大空へ



女子：期日：令和5年8月1日（火）～8月5日（土）開催地：釧路市・釧路町  
 男子：期日：令和5年8月7日（月）～8月11日（金）開催地：旭川市

### 【男子】

#### 予選グループ戦

- 東海札幌0（17-25、16-25）2市立尼崎（兵庫）  
 東海札幌0（21-25、22-25）2聖隷（静岡）  
 科学大高0（16-25、15-25）2高岡第一（富山）  
 科学大高1（11-25、26-24、10-25）2大垣日大（岐阜）

### 【女子】

#### 予選グループ戦

- 札山の手2（20-25、31-29、25-21）1明秀日立（茨城）  
 旭川実業0（19-25、16-25）2都市大塩尻（長野）  
 旭川実業2（21-25、25-22、25-11）1県岐阜商（岐阜）

#### 決勝トーナメント1回戦

- 札山の手0（12-25、11-25）2東九州龍谷（大分）

#### 決勝トーナメント2回戦

- 旭川実業0（13-25、15-25）2京都橘（京都）



旭川男子プログラム



釧路女子プログラム



## 令和5年度 北海道インターハイ写真集



高校生活動（旭川工業）  
 授業でナンバーパドルとボール  
 置きを作成してくれました。

## 令和5年度 国民体育大会 バレーボール少年 北海道選抜チーム

【少年男子】				
監督	松田 修一			東海大札幌
コーチ	辻 克典			科学大高
マネージャー	山内 隆宏			北海
背番号	氏名	学年	身長	学校名
①	二川 颯斗	3	184	東海大札幌
2	松井 陽輝	3	202	旭川工業
3	淀川 龍正	3	193	科学大高
4	佐藤 ラニ海	2	188	科学大高
5	沓澤 大地	3	185	東海大札幌
6	加納 匡崇	2	181	科学大高
7	松原 譲	3	179	とわの森
8	木村 綜太	3	177	とわの森
9	佐藤 優成	3	175	東海大札幌
10	齊藤 凌佑	3	172	札幌大谷
11	山本 秀慳	3	172	札幌藻岩
12	佐々木 一心	3	170	東海大札幌

【少年女子】				
監督	岡本 祐子			旭川実業
コーチ	緒方正 広			札幌大谷
マネージャー	村上 惇嗣			東海大札幌
背番号	氏名	学年	身長	学校名
①	笠井 季璃	3	174	旭川実業
2	井関 芹花	3	161	旭川実業
3	石崎 茉凛	3	166	旭川実業
4	滝口 空楽	2	171	旭川実業
5	谷川 星奈	2	169	旭川実業
6	堀田 柚音	2	166	旭川実業
7	西 杏夏	2	160	札幌大谷
8	竹原 優里奈	1	174	札幌大谷
9	川嶋 琉姫	3	180	札幌山の手
10	和泉 初音	3	166	札幌大谷
11	小林 史果	2	173	旭川実業
12	熊谷 莓花	1	180	旭川実業

### 令和5年度 全国高校選抜候補第一次合宿高校長身者発掘育成合宿（北海道ブロック合宿）指名選手 男子参加者名簿

番号	氏名	学年	身長	学校名
1	高橋 俊ノ介	1	191	札幌啓北商業
2	三品 乃垂	2	189	遠 軽
3	佐藤 ラニ海	2	188	科学大
4	大原 啓希	2	187	苫小牧工業
5	宇山 留加	2	187	函館ラ・サール
6	佐藤 一成	2	187	札幌第一
7	笹倉 涼平	1	186	札幌藻岩
8	鈴木 悠太	2	186	札幌北陵
9	南川 岳輝	2	186	札幌西
10	芝木 柁真	2	186	小樽桜陽
11	藤盛大 貴	2	185	札幌大谷
12	加藤 優	2	185	静 内
13	田中大 貴	2	185	北海
14	安藤 叶人	2	185	遠 軽
15	吉岡 清志郎	2	185	帯広柏陽
16	松田 歩	2	184	旭川工業
17	林 条生安	2	184	札幌藻岩
18	京田 爽介	2	183	恵庭南
19	野村 優太	2	182	札幌藻岩
20	工藤 悠雅	2	181	科学大
21	加納 匡崇	2	181	科学大
22	瓦本 樟太	2	180	北海
23	渋谷 隼	2	179	とわの森
24	元沢 快	1	176	札幌藻岩

### 女子参加者名簿

番号	氏名	学年	身長	学校名
1	松本 夏凛	1	182	札幌山の手
2	山田 帆乃香	2	181	札幌山の手
3	熊谷 莓花	1	181	旭川実業
4	小西 朱莉	2	176	北海道栄
5	原田 彩苗	2	176	札幌山の手
6	高階 百音	2	176	旭川実業
7	波木 ひなこ	1	176	小樽双葉
8	吉田 由芽	1	176	市立函館
9	鳴海 結愛	2	175	札幌大谷
10	工藤 夏渚	2	174	札幌大谷
11	小林 史果	2	174	旭川実業
12	三國 菜那	1	174	札幌東商業
13	竹原 優里奈	1	173	札幌大谷
14	山保 ななみ	2	173	旭川志峯
15	伊藤 幸芽	1	173	札幌山の手
16	毛馬内 梨乃	2	172	札幌国際情報
17	滝口 空楽	2	171	旭川実業
18	平山 結菜	2	171	函館商業
19	山本 倅央	2	170	岩見沢緑陵
20	佐々木 愛羽	2	169	旭川志峯
21	吉田 芽	2	165	札幌山の手
22	高橋 瞳衣	2	164	札幌山の手
23	木下 夏香	1	163	旭川実業
24	西 杏夏	2	161	札幌大谷

北から南から

## 網走南ヶ丘高等学校

## バレーボール部

創立100年 校訓

『自主自立 奉仕勤労 明澄端正』

～いつの日か古豪復活を～



網走南ヶ丘高校は網走市の高台に立っており、冬になると校舎から流氷を眺めることができる全道でも珍しい学校です。大正11年に北海道庁立網走中学校として開校し、昨年度、創立100周年を迎えた道内屈指の伝統校です。卒業生は2万1千名を超え、道内はもとより、国内外で素晴らしい活躍をしています。校訓「自主自立 奉仕勤労 明澄端正」のもと、学業に力を注ぐとともに、学校行事や部活動を通じて心身を鍛え、人と人との関わり大切さを学びながら、社会に貢献できる指導的役割を担う人間の育成を目指しています。

男子バレーボール部は現在、選手18名、マネージャー2名で活動をしています。バレーボールを通じた人間力の向上をテーマに、主体性や協働性、さらには状況判断力を磨き、卒業後は社会に貢献できる人材の育成に努めていきたいと考えています。近年、市内の中学校には男子バレー部が無く、ほとんどの選手が高校から始めた初心者です。しかし地域の特性なのか、一生懸命で素直な子が多く、上達するスピードにはいつも驚かされています。過去には全道優勝を成し遂げたこともある偉大な先輩方に恥じぬよう、日々鍛錬に励み、都市部の強豪校と渡り合えるように尽力していきます。

女子バレーボール部は過去に高校総体で優勝1回、準優勝1回という素晴らしい成績を残しており、大会プログラムの栄光の記録を見るたびに過去の先輩達の偉大さを実感し、敬服しているところです。ここ最近では平成22年の高校総体ベスト8、平成30年の選手権ベスト16に留まり、偉大な先輩達の足下にも及びませんが、伝統ある網南バレーボール部の一員に恥じないように日々練習に励んでいます。少子化、都市部への流出によって部員数は年々減り続け、現在は網走桂陽高校と合同チームで活動をしています。部活動の存続自体が厳しい時代になってきましたが、どのような形でも網南女子バレーボール部の伝統の灯を消さずに、いつの日か古豪復活となるよう力を尽くしたいと思います。

北海道網走南ヶ丘高等学校 男子バレーボール部 監督 藤本 健太  
女子バレーボール部 監督 高橋 佑典





北から南から



## 市立札幌清田高等学校 バレーボール部

### ～「一蓮托生」支えてくれている人に感謝を～

男子バレーボール部は、現在選手16名、マネージャー4名の計20名で活動しています。部員の7割以上が高校から競技を始め、経験の浅い選手ばかりですが、チームの目標である「全道大会出場」を目指して日々練習に励んでいます。清田高校は部活動が盛んな学校のため、平日の体育館は週3回1時間程度の活動時間しか割り当てがありません。その状況でも練習の精度向上や課題を見つけるためのミーティングや、練習の質を高めるためのトレーニングを重視して、目標に近づけるよう工夫をして取り組んでいます。今年度から地域のクラブチームとも連携し、合同練習や練習試合などを通してバレーの輪が広がる取り組みを行ったりなど、地域に根差した部活動としても活躍を目指しています。本校ホームページにも日々の活動記録等がありますので、何かの折に目にいただければ幸いです。

女子バレーボール部は4名の3年生が引退した後、現在1年生11名、2年生6名の計17名（内マネージャー2名）で活動しています。「一蓮托生」をスローガンに、支えてくれている人に感謝の気持ちを持ちながら、チーム全員で戦いボールを繋ぐ、全員バレーを目標としています。またバレーボールを通して礼儀を身につけ、人間性を磨き、成長できるように日々練習をしています。その成果が少しずつ結果に表れ、今年度の選手権大会では初めて全道大会に出場することができました。今後も先輩たちが積み上げてきた伝統を大切にしながら、技術力やチーム力をさらに身につけ挑戦を続け、全道大会に出場し1つでも多く勝ち上がれるように努力していきたいと思えます。

男子バレーボール顧問 林潤一・小林敦

女子バレーボール顧問 寺島学・清水純・阿部恭之

## 感謝のことば

北海道高等学校体育連盟 バレーボール専門部長

北海道岩見沢西高等学校長 家近 昭彦

「轟かせ魂の鼓動 北の大地へ大空へ」を大会スローガンに「翔び立て若き翼 北海道総体 2023」が女子会場は釧路市・釧路町、男子会場を旭川市にて昭和62年北海道大会から36年振りに開催することができました。北海道民を挙げて選手やチーム関係者をお迎えし高校生の最大のイベントである全国インターハイを地元高校生による真心のこもったおもてなし、大会関係者のご尽力がなければ無事に終わることは出来なかったものと感謝申し上げます。各都道府県の厳しい予選を勝ち抜き、今大会に出場を果たした選手・指導者の皆様方も心に残る素晴らしい大会になったことと思います。

さて、令和2年度より新型コロナウイルス感染症の猛威に苦しみ悩まされて来ましたが、本年5月より感染症法における感染症類型が5類に変更されました。学校教育活動におけるマスクの着用は個人の判断に委ねられることになりました。また、各地区大会等においても、スタンドから声を出しての応援が可能となり、従来の光景が戻って来たことに安堵と嬉しさを感じています。今大会も、選手や保護者、学校関係者や多くのバレーボールファンの方々からのプレーヤーや補助生徒へ向け熱い声援と応援をいただきました。

高体連の趣旨は『高校生の健全育成を目指す』、『競技力の向上』、『生涯スポーツ実践の基礎づくり』とされています。スポーツにおいては個人の目標や夢があり、仲間と共に励ましたり励まされたり、意見を言い合ったり悩んだりするものです。そして、指導者からは戦術や技術指導だけでなく、自分や仲間の大切さや物事の考え方など貴重な意見やアドバイスをもらい共に考えるなど良好な関係を築き目標に向け努力する姿勢が大切なことだと思います。スポーツを通じてコミュニケーションやプレゼンテーション能力を身につけ、将来に繋げる体験をすることに意義があると思います。また、バレーボール競技は『勝っても負けても 楽しい!』のです。楽しくなければつまらないものになってしまいます。選手の皆さんは思い切り楽しく!指導者の先生方は生徒・選手への支援と応援、良き理解者として寄り添うことが大切であり心にとめて実践して欲しいと願います。

結びになりますが、今年度の高体連主催大会の開催にあたり、全国大会をお引き受けいただいた釧路市・旭川市、釧路市・旭川市開催地実行委員会、北海道バレーボール協会をはじめ、とりわけご尽力をいただきました北海道高等学校バレーボール専門部の先生方や多くの方々に対し心より感謝申し上げますとともに、今後の一層のご発展とご健勝を祈念申し上げます。感謝の言葉といたします。



# 退任のごあいさつ

北海道高体連バレーボール専門部 専門委員長

札幌大谷高等学校 藤原 正

私が北海道高体連バレーボール専門部やバレーボール協会の仕事に携わるようになってから20年程経過しました。令和元年度からは北海道高体連バレーボール専門部委員長と全国高体連バレーボール専門部ブロック代表常任委員を5年間と北海道バレーボール協会の常任理事として強化部や競技部の仕事をさせて頂きました。

中でも委員長在任中の大きな思い出は北海道インターハイバレーボール競技の責任者として仕事をさせて頂いたことです。北海道では昭和62年以来36年ぶりの開催で当時の運営状況を知る方がいない中で令和2年度より準備が始まりました。インターハイ開催の会場地条件としては宿泊施設が確保でき、試合コート6面と練習会場12面が必要となります。北海道内でもこの条件をクリアできる市町は少ない中、旭川市・釧路市・釧路町にお願いしたところ快く引き受けて下さいましてたいへん感謝しています。

大会の運営面では、厳しい財政状況の中で大会経費のスリム化を要求されていました。例年の全国高校総体と比べ見劣りすることがないように、クラウドファンディングを模索したり、北海道バレーボール協会や全国高体連バレーボール専門部に大会開催の窮状を説明し金銭的な面でも援助して頂きました。また地理的なハンディキャップがあり事前準備に苦慮したものの北海道高体連バレーボール専門部や北海道バレーボール協会審判委員会、地元役員の素晴らしい協力のもと、様々な準備、競技役員研修、抽選や式典のリハーサル、ラインジャッジ、ボールリトリバー、点示など競技補助生徒の研修も順調に進み本番に臨むことができました。大会期間中も運営補助生徒は暑い中での駐車場や外の警備をはじめとして受付、プログラム販売、弁当配布所など試合を見ることができない場所での活動でありながらもそれぞれの役割をきちんと果たしてくれました。旭川大会の閉会式時には4年間の準備期間を思い出し無事終わった安堵感と感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。多くの先生方や補助生徒に支えられて10日間の行事を終了することができました。この場をお借りして感謝とお礼を申し上げたいと思います。

私の教員生活は昭和61年に新卒で道北の羽幌高校に赴任しその後恵庭南高校、札幌西陵高校、札幌東商業高校と4校の公立高校で勤務させていただきました。

高校バレーボールの指導者を夢見て教員になり、監督として全道優勝も経験し全国大会へは2度出場しました。また最後に高校スポーツの最大のイベントであるインターハイの運営責任者として機会を与えて頂きました。今まで37年間素晴らしい生徒に出会い、たくさんの教職員に育てられ、保護者、地域の方々に支えられながら、全力で高校バレーボールの指導や大会運営に携わることができたことに心より感謝申し上げます。

現在札幌大谷高校に勤務しています。今後は札幌大谷高校男子バレーボール部三原監督をサポートし、まずは全国大会への出場を目標に、また札幌大谷大学バレーボール部の監督として今後も尽力していく覚悟です。



## 感謝を込めて

北海道高体連バレーボール専門部 専門委員

北海道釧路明輝高等学校 松野 清佳



私が教員になる頃は、62インターハイ・64完全国体と高校スポーツ界にとってかなり大変な時期であったと今は思いますが、高校バレーの全国大会をひとりの観戦者として楽しく見ていたことを思い出します。（まさか自分が36年後に大きく関わることなど想像すらしていませんでしたが…）

釧路湖陵へ転勤してからバレーボールと本格的に関わることになり、釧路の重鎮の先輩方に鍛えられ、今日を迎えています。大会業務では釧路北陽の小林静夫先生、審判・協会理事長では武田和夫先生など、各先生にはそれぞれアドバイスいただき、自分の成長に繋がりました。私が後進の指導をする立場になり、その基礎は、各先生方からのご指導やアドバイスでした。さらに公私ともに一緒に支え合った浅野泰弘先生には、大変感謝しています。これからもよろしくお願いします。

平成10年から釧路支部の専門委員（最後3年は本部指名専門委員）となり、26年間の任務を終えます。その間、和田・関原・杉木・丸山・藤原各先生方が委員長として我々をまとめてくれました。感謝申し上げます。特に、専門委員の諸先輩方にはノウハウをたたき込んでいただき、今の専門部があると思います。また、関原先生と本間先生のお二人から「専門部を頼むぞ」と退任時の言葉が、北海道インターハイに繋がったように思います。専門部の課題も多くありました。その当時の強化部から「強い北海道」として、春高を南北統一して強い代表を出場させること、さらに国体予選の廃止と新人大会の創設、それに伴うシードの問題など議論を重ね、現在の形となりました。春高の南北統一の時には、北大会の男子指導者が猛反発しました。「夢がなくなる」と話していた後藤先生の姿が今でも思い出します。大会運営としては、当番校の業務軽減や引き継ぎ方法の変更を行いました。特に、練習会場については、支部の学校の統廃合が急速に進み、私が当番校を実施した平成26年度大会を最後に廃止しました。これにより、当番校の人員を少なくできました。また、当番校業務の一環として、予選グループ戦抽選会に次年度の当番校も出席していただき、次年度の業務の準備を把握することにしています。

そろそろ定年を迎えるころ、北海道インターハイがやってくると聞きました。「自分は前年に定年だから」と無責任なことを話していましたが、巡り巡って大役（会場地担当教員）が来ることになりました。再任用教員でも可能との判断でした。釧路開催に至った経緯は、大きな会場があること、宿泊施設があることなどとなるわけですが、それ以外にも理由はありました。そのひとつに私が釧路に居たこともその理由のひとつとなったのです。令和2年に打診があり、そこから大会視察などをしながら、準備を進めました。旭川大会会場地担当教員の石崎先生と情報共有しながら進めましたが、大会の半年前から、お互いのメールやLINEで1時間ごとにやり取りすることもあり、PCとスマホを離せない日々が続いていきました。事務局の場所も3回移動しました。大会準備には知らないことばかりで、その都度、先催島の徳島・香川の担当者にご指導いただきました。なんとか大会準備が見えてきた頃、想定外のことがありました。気温です。釧路の涼しい環境で試合をしてほしかったのですが、熱中症を警戒しなければならぬような事態となりました。無事に大会が終了したのでホッとしたことを思い出します。（その後気が抜けた私は、旭川大会の3日目にコロナ感染で釧路へ帰りました）前年度までのコロナ渦での大会運営から、コロナ以前の大会運営に戻すことを求められ、何とかやり繰りしましたが、今後も警戒しながらの運営が必要だと感じました。さらに、大会経費を抑えるためにさまざまな制約もあり苦労しました。大会を終えて、土田宇宙さんと鈴木元輝さんの3人で事務局を担当し成功できたこと、本当によくやったと思います。釧路市釧路町実行委員会の関係者をはじめ、釧路根室管内の高校関係者、その他多くの方々にご協力いただき、大会が無事に終了できたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

26年の任期を終えるにあたり、専門部の先生方には大変感謝申し上げます。特に北海道インターハイ業務に関しては激務であったと思います。（私にとっては本当に集大成でした）この経験はもう二度とできない経験だと思います。皆さんだったからこそ無事に終わることができた（自慢できます）感謝しています。ありがとうございました。さらに、高校バレーの大会業務を担当された北海道協会ならびに地区協会の方々、OBの諸先輩方、当番校と一緒に大会運営をしていただいた先生方、北海道の審判員の方々、関わっていただいたすべての方々に感謝申し上げます。退任の挨拶と致します。

# 跳び立て若き翼 北海道総体2023 写真で見る記録集

## バレーボール (男子) 旭川市 (道北アークス大雪アリーナ、旭川市リアルター夢りんご体育館、忠和公園体育館)



## バレーボール (女子) 釧路市 (ウインドヒルくしろスーパーアリーナ)、釧路町 (釧路町総合体育館)





チラシ



ポスター



懸垂幕 (旭川市役所庁舎)



バックボード (ポスター作品展 (釧路市))



男子旭川PR動画



女子釧路PR動画

バレーボール女子で、ともに決勝トーナメント進出を決めた道勢。このうち、旭川実はエース登井季璃選手(3年)がU-19エース世界大会に出場のため不在の中、選手全員が手の甲に「季璃」「勝つ」とフェルトンで書いて気合を入れた。

敗者復活戦で対戦した県岐阜商との試合では、第1セットを先取されたものの第2、3セットを取り返して勝利。岡本祐司監督は「ミスが多かったが尻上がりによく言った」と評した。

井関芹花選手(3年)は、「ミスしても、内容がよか

## エース不在 互いに鼓舞

バレー女子・旭川実



県岐阜商(右)の選手とネット際の攻防を繰り広げる旭川実の選手たち(2日、釧路市で)

「つたら、もう一本(トスを)上げるから次は決めなと言った」と、仲間を鼓舞して勝利をつかんだ試合を振り返った。

令和5年8月4日(金) 読売新聞



ポスター原画展 (イオンモール旭川西)



